

# ナビ派の2019年

日時 2019年12月16日(月) 15:20～18:00

会場 一橋大学 国際研究館3階 会議室  
(定員は先着30名、事前予約不要)

登壇者 小泉順也(一橋大学大学院言語社会研究科 准教授)

吉村 真(早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程)

横山由季子(金沢21世紀美術館 学芸員)

袴田紘代(国立西洋美術館 主任学芸員)

19世紀末のパリにおいて、新たな芸術の革新を目指した「ナビ派」と呼ばれる若手の芸術家たちの活動は、近年の展覧会で頻繁に取り上げられています。2018年から2019年にかけての2年間は、その動きがとくに顕著になった年として記憶されるでしょう。東京、パリ、ロンドン、ニューヨーク、ウィーン、フランクフルト、コペンハーゲンといった大都市に加えて、フランスのジヴェルニー、イギリスのバス、さらにはアラブ首長国連邦のアブダビなど、世界各地でナビ派に関連する展覧会が開催されました。今回のワークショップでは、海外を中心とした展覧会を取り上げ、現地に足を運んだ登壇者が展覧会批評を試みるとともに、近年のナビ派研究の動向を議論します。

主催 一橋大学博物館研究会  
科研費 若手研究(B)美術制度から見たナビ派の受容と現在(課題番号 18K12227)

問い合わせ先 [m.koizumi@r.hit-u.ac.jp](mailto:m.koizumi@r.hit-u.ac.jp)